

PKO法案廃案！日本帝国主義に反対する闘いへ！

新しい政治闘争の構想力を

PKO法案（国連平和維持活動協力法案）は、十二月十日、自民両党の合意なるものによって国会での成立が断念され、継続審議となった。また次期通常国会でも成立の見通しは確定できず、廃案となる可能性もでてきた。いうまでもなく、PKO法案成立断念という事態は、反対運動が燃え広がり、その結果というのではなかった。法案が、現地派遣部隊の指揮系統すらやむやみであるという最低限の整合すらもつていなかったこと、その背景にある支配の側面国家戦略の不確定と、竹下・小沢の足の引つ張り合いに見られる自民党から野党まで含んだ政治再編からの暗闘の産物であることは明白であろう。これを契機に、より明確な国家戦略（らしきもの）と法的整合をもった（このためには改憲が不可欠だが）自衛隊海外派兵の試みがされるであろうことは事実であり、反対する側の政治的構想と運動を形成していく力がリアルに試されることとなるだろう。

PKO法案の衆院特別委員会 日比谷野音で全労協、日市連をの強行採決を前後して、連日 中心に、二三日には渋谷、宮下、さまざま反対運動が行われた。公園で「共同行動」の、そして十二月一日には同じ宮下公園で



12.1 渋谷の繁華街をデモする教師・学生・予備校生の隊列 PKOに反対し、堂々と一歩を歩く「教師」の会

予備校教師を中心にした会がもたれ、またこの間、日市連の連日デモ、渋谷駅頭や大学での抗議のハンストが聞かれた。

十二月一日の行動は「PKOは反対だ！いっしょに歩き、議論しましょう」というもの。全国の予備校・塾の教師約百人、大学・高校などの教師七十人あまりの呼びかけで開かれた。デモ出発の宮下公園には三時頃から、続々人が集まり始め、出発時には約三〇〇人、労組の職員によらないデモとしては久々の大結集（？）となった。特に目立つのはデモは始めてという予備校生や大学生が多く参加したこと、またヘルメットもちらほら、渋谷、原宿の繁華街、四キロ余りを歩き、そのまま五時過ぎより、千駄ヶ谷区民館で討論会に入った。この討論会にも

会場満杯の二五〇人ほどが参加した。八時半まで活発な議論が続いた。最初の呼びかけ人である最前さん、吉川さん、牧野さんがそれぞれ趣旨と考えていることを発言、さらに自己の戦争体験を含め福留さん、PKO法案の法律的問題点を山内さんが発言、さらにフロアーからいろいろな意見がだされた。

この行動は、二つの意味で今後の運動の問題提起を投げかけたと思われ。一つは運動組織する側の創意工夫、仕掛け、まだまだ人々、特に若い人を政治的な意見表明、行動へ誘う余地があることを示した。このさい考えねばならないのは、旧態依然の集いに音楽その他イベントを入れれば事足りるとする、つまり集会技術の問題ではなく、政治を組織する思想そのもの

転換が問われていることである。十二・一の行動のなんとほなし楽しい雰囲気はそのことを物語っている。次に、運動を貫く思想、立脚点の問題である。これは、討論会に「新右翼」といわれる一水会が参加し、その発言一討論会ではつきりしてきた。PKO法案には反対という

ことに参加してきた彼らは、アジアへの戦争責任問題などで結局、あの戦争は「日本国家を欧米から守るため」にはやむをえなかった」という、言わば「腐った国家」論を展開した。それに対して「国家よりも民衆、私」という、一種のアナーキズムとでもいえるべき立場が浮かび上がった。このようにPKO問題が、つまるところ国家を巡る問題であることが鮮明になり、議論がたかかわされたことは大きな意味を持つ。

PKOを巡る動きは、来年に持ち越された。おそらく小沢調査会などがより突出した形での情勢をリードしようとするであろう。闘いは文字どおりこれからである。

つげPKO法案生かせ憲法九条 11・20全国集会

大久保・三井両議院の司会で集会がスタート。斎藤院議員の国会情勢報告、田参議院議員の中国・カンボジア報告に続いて、神奈川高教組・自治労都

職労・広島県労働組合共闘会議が「労働組合アピール」。市民グループ「アピール」では京都のウトロを守る会・沖縄研究会・日本YWCAなどが発言。剣持一巳さんによるラムゼー・クラーク元司法長官からのアピールの代読や津田塾大学のダグラス・ラミスさん、予備校教師で会を作りPKO反対運動を始めた牧野剛さんの発言の後、社会党を代表して登壇した小沢副書記長は「PKO法案は矛盾が多

い。国連事務総長ではなく防衛庁長官の指揮下に入る。これはPKFではなく、自衛隊の派兵以外の何者でもない。廃案にさせるしかない」と訴えた。続いて壇上に並ぶ社会党の国会議員約30人に、「みんなの力で憲法九条を守り、PKO法案を廃案に追い込もう」との集会アピールが渡され、「全国各地でPKO反対の闘いを繰り広げよう」と行動提起がされ、デモに出発した。

集会参加者は六〇〇人と発表された。日市連をはじめとした市民グループと労組・教組・自治労などの労働組合、社会党議員団とこの枠組が、今後どこまで広がりをもちうるか、これからの運動展開にかかって

社会党は14日、26日にも緊急集会を開いたが、いづれも民間労組の参加は少なかった。 (一九九一・一三二)

ソ連共産党の崩壊とソ連邦の解体 (1)

「八月政変」とは何であったのか

畑中 文治

ソ連を巡る情勢の展開は余りにも早い。一つのしかも歴史的に重大な出来事の意味を理解しようとする為、情報をかき集め、自らの知識を動員し、思想の立脚点を点検し、理論の脈絡を整理しようとする間に、一定の見地を提起する間もなく次の歴史的出来事が自らの政治的、思想的立脚点の検証を求めて生起して来る。

八月一日、ソ連共産党保守派を中心とする「国家非常事態委員会」によってゴルバチョフ政権に対するクーデターが行われた。これが二日に予定されていた「新連邦条約」締結の阻止を目的としていたことは明らかである。だが、クーデターは僅か四日後に惨めな敗北を遂げた。かわって各共和国の主権宣言と独立の動きが相次ぎ、ソ連邦の事実上の解体が急速に進行した。それと同時にソ連共産党

の事実上の崩壊が、急速に現実のものとなった。保守派のクーデターは、それが狙った目的とは正反対の事態をしかも歴史の日程を大幅に圧縮して実現する結果をもたらすことになった。そしてクーデターの敗北によってゴルバチョフは復権したもののその政治的存在意義は既にその基盤を失うことになった。

八月一日、ロシア、ウクラ、イナ、ベラルーシ三国は協定に調印し、ソ連邦の消滅とE.C型「独立国家共同体」の形成を宣言したことが伝えられた。予測された事態とは異なり、同時代人間としての私達にとっては、アナル派の歴史の長期趨勢に基づき理解に還元してしまっただけでは済まされないものがあつた。歴史の転換に立ち会うための最低限の観念の提起をなし得る限りで行おう。

「八月政変」のもたらしたもの

「八月政変」は人々によってブッチリ一揆と呼ばれていると云う。外国語には全く暗い私はその語感の含む人民にとつての歴史的感懐というようなものについては全く分らない。だが、報道によつて知る限りでは、保守派クーデターを示した行動は、人民の希望と絶望をいませにしたいような私達の知る百姓一揆のそれを類推させるなものもなかった。そこには、共産主義者としての理想も、革命家としての果敢さも変革の情熱も、マルクス主義者としての理性もな

く、あつたのはただただ自らを自らを青んだ旧秩序の再生の願望に過ぎなかつた。そしてクーデターの自壊は、思想と理念を欠き、情熱さえも失つたソ連の党と国家の官僚が歴史の転換に際していかに無力であるかを余すもなかつた。そして「八月政変」の結果として何をもちたかは、具体的な事実として明らかになった。第一に国家機構と分ちがたく結び付き、それと一体となつてソ連における国家権力を構成して来たソ連共産党の解体である。既に急速にしたような私達の知る百姓一揆の形骸化したとは言え、ソ連邦全土を覆う国家権力の柱は

その背骨を叩き折られた。八月二日、ゴルバチョフはロシア共和国大統領としてのエリツィンによるロシア共産党の活動停止命令をうけて、ソ連邦共産党中央委員会に自主解散を求めた声明を発表すると共に、自らその書記長職を辞任した。それとともに共産党の議会による全面接収を布告し、さらに第三には各共和国におけるポピュリズムの権威主義体制への移行の傾向が明らかになったことである。とりわけロシア共和国においては、エリツィンの強権的政治手法が、他の共和国

風をよむ

第20号 編集 「風をよむ」編集委員会
1991.12.20 定価100円 発行 共産主義者同盟首都圏委員会

MR研11月公開フォーラム

一七七年ロシア革命から「八月政変」へ

一月九日「一七七年ロシア革命から「八月政変」へ」ソ連共産党の解体をどう捉えるかというテーマで、MR研の公開フォーラムが行われた。MR研では最初の研究テーマを「ソ連邦の解体と共産主義のゆくえ」としており、今回は設立総記念講演における、広松渉さんの「ソ連共産党の崩壊とマルクス主義の射程」を引き継ぐ、このテーマでの二回目の公開フォー

ラムになる。今回は専門の研究者による報告を立てずに、MR研に参加している会員から報告者を募り、研究テーマのいわばホットで実践的な側面についての意見交換と共同討論を行うことに力点が置かれた。「八月政変」の突き付けた、マルクス主義と共産主義運動の主体的危機に、知識やアカデミズムの権威に頼るのではなく、実践的主体の立場で正面から応えようとい

う意欲的な企画ではあつた。公開フォーラム開催に先立ち、運営委員会から報告者に、①「八月政変」の見方・評価、②ソ連共産党の背景・意味、③従来のソ連社会主義規定の捉え返しをも含めた共産主義ないしはマルクス主義にとつての課題、という三点の論点が提起され、これに基づいて報告と討論が行われた。

だが報告と討論の内容に即して評価する限りではお世辞にもなかつたのではない。討論に参加したそれぞれの意欲や姿勢

就学時健診反対闘争によせて

七九養護学校義務化から十余年が経過し、今また「日の丸・君が代」義務化一新学指指導要領の実施が来年九十一年度から学校をめぐる展開は、ひとつの権力再編という相親をとって...

学校へ「全国連絡会」をはじめとして広範なうねりをつくり出してきている。それは端的に、ハンディをもった子供達も地域の普通学校へ入学させよう、排除・選別を強行する就健を拒否しようという共生・共育の運動としてすすめてきた。その意味からも、単に就学前の入口での闘いとして収束されるのではなく、学校内外を貫いた問題領域へと越境する運動とそのネットワークを構築するものとして...

坂内さんへの返事に託けて

「党」を標榜する」という坂内さんの言葉のなかに、言い古された言い方ですが「あるべき理想」から判断する傾向を感じてしまいました。はっきり言って「正しい戦略戦術」をもったからといって党が建設されるわけではありませぬ。我々はいつても「いい仕事」が出来るわけではないし、常に「任務」を十全に果たし得るわけでもありません。そもそも「情勢を切り拓く」といつても、極論すれば、それは歴史の判定を待つ他はないとさえ言えます。なぜなら主観的に「情勢を切り拓いた」と思っ...

九一年一月二七日、日本女性学研究会主催の「八〇年代フェミニズムを総括する」というシンポジウムを前後して、上野千鶴子、上野由美子、大越愛子、織田元子らで論争が展開されている。私はこのシンポジウムに参加しなかつたけれど、その後の議論を見るに、「なんでこんなことになっちゃったの？」というのが率直な感想である。

「党」を標榜する」という坂内さんの言葉のなかに、言い古された言い方ですが「あるべき理想」から判断する傾向を感じてしまいました。はっきり言って「正しい戦略戦術」をもったからといって党が建設されるわけではありませぬ。我々はいつても「いい仕事」が出来るわけではないし、常に「任務」を十全に果たし得るわけでもありません。そもそも「情勢を切り拓く」といつても、極論すれば、それは歴史の判定を待つ他はないとさえ言えます。なぜなら主観的に「情勢を切り拓いた」と思っ...

風をよむ

「党」を標榜する」という坂内さんの言葉のなかに、言い古された言い方ですが「あるべき理想」から判断する傾向を感じてしまいました。はっきり言って「正しい戦略戦術」をもったからといって党が建設されるわけではありませぬ。我々はいつても「いい仕事」が出来るわけではないし、常に「任務」を十全に果たし得るわけでもありません。そもそも「情勢を切り拓く」といつても、極論すれば、それは歴史の判定を待つ他はないとさえ言えます。なぜなら主観的に「情勢を切り拓いた」と思っ...

いびるフェミニスト間

論争に思うこと

重要なポイントだと思ふ。江原さんが主張するように、「母性派フェミニズム」の一言で、切り捨てることではないと思ふ。そして、上野さんに言いたいこと。彼女はシンポジウムで「八〇年代フェミニズムの理論的構造を歴史的に総括する」ために、三つの軸による「俯瞰的な見取り図」を提案している(「江原さんへの手紙」現代思想91年9月号)①冠つきフェミニズム、②または多様なフェミニズム③原典復帰派フェミニズム④原典復帰派フェミニズム⑤⑥母性派フェミニズム⑦⑧娘のフェミニズム⑨⑩文化派フェミニズム⑪唯物論

重要なポイントだと思ふ。江原さんが主張するように、「母性派フェミニズム」の一言で、切り捨てることではないと思ふ。そして、上野さんに言いたいこと。彼女はシンポジウムで「八〇年代フェミニズムの理論的構造を歴史的に総括する」ために、三つの軸による「俯瞰的な見取り図」を提案している(「江原さんへの手紙」現代思想91年9月号)①冠つきフェミニズム、②または多様なフェミニズム③原典復帰派フェミニズム④原典復帰派フェミニズム⑤⑥母性派フェミニズム⑦⑧娘のフェミニズム⑨⑩文化派フェミニズム⑪唯物論

重要なポイントだと思ふ。江原さんが主張するように、「母性派フェミニズム」の一言で、切り捨てることではないと思ふ。そして、上野さんに言いたいこと。彼女はシンポジウムで「八〇年代フェミニズムの理論的構造を歴史的に総括する」ために、三つの軸による「俯瞰的な見取り図」を提案している(「江原さんへの手紙」現代思想91年9月号)①冠つきフェミニズム、②または多様なフェミニズム③原典復帰派フェミニズム④原典復帰派フェミニズム⑤⑥母性派フェミニズム⑦⑧娘のフェミニズム⑨⑩文化派フェミニズム⑪唯物論

重要なポイントだと思ふ。江原さんが主張するように、「母性派フェミニズム」の一言で、切り捨てることではないと思ふ。そして、上野さんに言いたいこと。彼女はシンポジウムで「八〇年代フェミニズムの理論的構造を歴史的に総括する」ために、三つの軸による「俯瞰的な見取り図」を提案している(「江原さんへの手紙」現代思想91年9月号)①冠つきフェミニズム、②または多様なフェミニズム③原典復帰派フェミニズム④原典復帰派フェミニズム⑤⑥母性派フェミニズム⑦⑧娘のフェミニズム⑨⑩文化派フェミニズム⑪唯物論

重要なポイントだと思ふ。江原さんが主張するように、「母性派フェミニズム」の一言で、切り捨てることではないと思ふ。そして、上野さんに言いたいこと。彼女はシンポジウムで「八〇年代フェミニズムの理論的構造を歴史的に総括する」ために、三つの軸による「俯瞰的な見取り図」を提案している(「江原さんへの手紙」現代思想91年9月号)①冠つきフェミニズム、②または多様なフェミニズム③原典復帰派フェミニズム④原典復帰派フェミニズム⑤⑥母性派フェミニズム⑦⑧娘のフェミニズム⑨⑩文化派フェミニズム⑪唯物論

重要なポイントだと思ふ。江原さんが主張するように、「母性派フェミニズム」の一言で、切り捨てることではないと思ふ。そして、上野さんに言いたいこと。彼女はシンポジウムで「八〇年代フェミニズムの理論的構造を歴史的に総括する」ために、三つの軸による「俯瞰的な見取り図」を提案している(「江原さんへの手紙」現代思想91年9月号)①冠つきフェミニズム、②または多様なフェミニズム③原典復帰派フェミニズム④原典復帰派フェミニズム⑤⑥母性派フェミニズム⑦⑧娘のフェミニズム⑨⑩文化派フェミニズム⑪唯物論

「党」を標榜する」という坂内さんの言葉のなかに、言い古された言い方ですが「あるべき理想」から判断する傾向を感じてしまいました。はっきり言って「正しい戦略戦術」をもったからといって党が建設されるわけではありませぬ。我々はいつても「いい仕事」が出来るわけではないし、常に「任務」を十全に果たし得るわけでもありません。そもそも「情勢を切り拓く」といつても、極論すれば、それは歴史の判定を待つ他はないとさえ言えます。なぜなら主観的に「情勢を切り拓いた」と思っ...

「党」を標榜する」という坂内さんの言葉のなかに、言い古された言い方ですが「あるべき理想」から判断する傾向を感じてしまいました。はっきり言って「正しい戦略戦術」をもったからといって党が建設されるわけではありませぬ。我々はいつても「いい仕事」が出来るわけではないし、常に「任務」を十全に果たし得るわけでもありません。そもそも「情勢を切り拓く」といつても、極論すれば、それは歴史の判定を待つ他はないとさえ言えます。なぜなら主観的に「情勢を切り拓いた」と思っ...

風をよむ

「党」を標榜する」という坂内さんの言葉のなかに、言い古された言い方ですが「あるべき理想」から判断する傾向を感じてしまいました。はっきり言って「正しい戦略戦術」をもったからといって党が建設されるわけではありませぬ。我々はいつても「いい仕事」が出来るわけではないし、常に「任務」を十全に果たし得るわけでもありません。そもそも「情勢を切り拓く」といつても、極論すれば、それは歴史の判定を待つ他はないとさえ言えます。なぜなら主観的に「情勢を切り拓いた」と思っ...